

【はじめに】

9月に入り、フィンドレーの気温は顕著に低下しています。最低気温が6~8度という日が続き、慌てて冬用の布団を買いに出かけました。冬が来るのが怖くてたまりません。今回のレポートでは、埼玉県知事の訪問、フットボールシーズンの開幕、授業の様子、ルームメイトなどについてお知らせしたいと思います。

【埼玉県知事の本校訪問】

9月6日に埼玉県知事の上田清司氏が来校されました。知事は、埼玉県に関するスピーチや、学生や教師との意見交換会に出席されていました。ユーモアを交えつつ日本の良さをアピールする姿は、国籍関係なく多くの出席者を引き付けていました。フェル学長の家で行われた昼食会で上田知事と直接お話する機会に恵まれたのですが、「教育は社会に大きなインパクトを与える」と繰り返しおっしゃっていた姿が印象的でした。その言葉通り、埼玉県は数多くの奨学金を提供して若者の海外留学を支援しており、フィンドレー大学にも毎年3人を派遣しています。これからさらに派遣人数を増やすともおっしゃっていて、非常にうらやましく思いました。

昼食会には、大学関係者の他に、地元の教育委員会の方々やビジネスパーソンも多数参加していました。フィンドレーには自動車関連の工場が多く立地しており、日本の会社と関係のある会社も少なくありません。私がお会いした経営者の方々は口を揃えて「日本企業の生産システムと技術力は素晴らしい。」とおっしゃっていました。先人たちが築いたこれらの強みを維持していくことが私たち若い世代のやるべきことの1つなのでしょう。

【フットボールシーズンの開幕】

アメリカで一番人気があるスポーツといえば、やはりアメリカンフットボールです。野球やバスケットボールの人気も高いですが、アメフトはそれ以上のような感じです。9月に入ると、プロリーグと大学リーグが開幕します。フィンドレー大学にもアメフトチームがあり、その開幕戦を観に行きました。なんと、試合観戦がライティングのクラスの宿題だったのです。ルールを知らないまま行ったのですが、思ったより単純ですぐに試合を楽しむ事ができました。試合は46--38で競り勝ち、スタジアムはまるでお祭り騒ぎでした。フィンドレー大学は開幕以来3連勝しており、今後の活躍が楽しみです。学

生だけでなく、多くの地元住民もスタジアムに駆けつけており、大学スポーツがプロリーグに負けない大衆娯楽となっていることがよくわかりました。

【授業の様子】

授業は相変わらず課題が多いですが、段々と慣れてきたように思います。今月中旬にテストがあったのですが、まずまずの成績をとることができてほっとしています。スピーチクラスの試験はプレゼンテーションで、私は「日本」をテーマに発表し、高評価を頂きました。漢字・ひらがな・カタカナの使い分け、上座の概念、キャラ弁などがアメリカ人にとって面白かったようです。今後も気を緩める事なく頑張っていきたいと思っています。

【ルームメイトについて】

私はキャンパス内の寮に住んでいるのですが、2人部屋なのでルームメイトがいます。ルームメイトの名前はグスタボといい、ブラジル政府からの奨学金を得てフィンドレー大学の生物学部に留学しています。2人部屋にしたのは、値段が安いことと英語の練習ができると思ったからです。地球の反対側に住んでいた者同士の共同生活は、毎日発見があって刺激的です。

はじめは2人部屋について、「プライベートがなさそう」「ゆっくりできなそう」、「ルームメイトとそりが合わないかもしれない」など不安を持っていましたが、お互い最低限の気遣いさえあればそこまでストレスなく生活する事ができます。友人ができますし、英語を話す機会が増えるので、これから留学する方々にも2人部屋をおすすめしたいと思います。もし共同生活が難しいと感じたら大学に申請する事で簡単に1人部屋に変えることができます。

【最後に】

“Do not seek to follow in the footsteps of
the wise. Seek what they sought.”

フィンドレー大学では学期の始まりにスケジュール帳を全学生に配るのですが、その各ページに1つずつ名言が載っています。上記の英語の文章は9月の最初のページにあった名言で、「賢い人のものまねをするのではなく、彼らが追い求めていた思いや本質を学ぶことだ」という意味です。物事の暗記だけではなく、本質まで深く考えさせようとするアメリカの教育姿勢がよく現れているなど感心しておりました。

ところが、実はこの名言は松尾芭蕉によるものだったのです*。原文では、「古人の跡を求めず、古人の求めたる所を求むべし。」となっています。まさかアメリカで遭遇するとは思いませんでした。世界的に有名な名言の1つとされていることに嬉しさと誇りを感じました。きっとこの考え方も、日本人として後世に引き継いでいかなければならないのでしょう。

*最初に言ったのは空海という説もあるようです。

言語は2~3ヶ月経つと一気に伸びるというのを聞いた事があります。来月はその時期に入るので、英語が上達するのを願って止まない今日この頃です。10月には秋休みやハロウィーンがあるので、次のレポートではそれらについてお知らせしたいと思います。今月のレポートはここで失礼いたします。冗長な文章にご付き合い頂き、ありがとうございました。



【写真】

左：フットボールの試合にて。大学のマスコットと子供が遊んでいます。

右：埼玉県知事と埼玉県奨学生と一緒に。筆者は左です。

※本レポートに関しまして、内容に関しての問い合わせや要望等があれば以下のメールアドレスにてご連絡下さい。

okada.fukui.findlay@gmail.com

【はじめに】

10 月最後の週末は、とうとう雪が降ってしまいました。オハイオ州の今年の冬はここ数年で一番の寒さとなるようですが、雪にも風にも負けず頑張っていきたいと思います。今回のレポートでは、トレド日本人補習校、アメリカでの就職活動、現地高校生とのふれあいについてお知らせしたいと思います。

【トレド日本人補習校】

デトロイトを擁するミシガン州からオハイオ州にかけて自動車関連の工場が数多く立地しています。この地域に進出している日本企業も少なくありません。そのせいもあり、毎年多くのビジネスパーソンが日本からオハイオ州に赴任してきています。家族連れで赴任される方も多くいらっしゃいますが、全日制の日本人学校がアメリカには少ないため、子供たちはアメリカ現地の学校に通う事になります。トレド補習校では、普段はアメリカの学校に通っている日本人の子供たちを土曜日に集めて、日本語での授業を提供しています。トレド補習校に通う子供たちは小学 1 年生から高校 1 年生までと幅広いですが、それぞれ今後日本に帰国する事を視野に入れて、少しでも日本語や日本の教育に慣れるために努力しています。私は、このトレド補習校の数学講師として採用され、10 月末より中学生と高校生に向けて授業をしています。現在は中高生 4 人に数学を教えているのですが、教える事の難しさと、責任の重さをひしひしと感じています。先日、愛知県豊橋市から中学生が同校を訪問し、ソーラン節や歌合唱などの出し物を通して交流していました。豊橋市の中学生も、トレド補習校の生徒も住んでいる所は違えど同じルーツを持つ日本人同士楽しく話をしていたのが印象的でした。

【アメリカでの就職活動】

「留学をすると、就職が心配だ」とおっしゃる方がいるかもしれません。ここでは、アメリカでの就職活動についてお伝えしたいと思います。私自身

が現在就職活動をしているところなので、体験談も含めて書かせていただけたらと思います。まず、アメリカに在ながらの就活には2つの道があります。1つは、日本に帰国して働く道、もう1つはアメリカに残って働く道です。まず日本に帰国して働く道についてですが、これは私の知っている限り、海外留学をしている日本人を対象に行われる就職活動イベントに参加するのがいいと思います。毎年、ボストンやロサンゼルスで日本語と英語のバイリンガルを対象とした大規模な就職活動イベントが行われます。とくにボストンの方は200社近くの企業が集まる大規模なイベントで、3日間のイベント期間中に内定を出す所もあるようです。企業の説明会も開催されますし、参加するメリットは充分あるのではないのでしょうか。その他に、アメリカに残って就職する道もあります。しかし、交換留学だとこちらはすごく難しいと思います。というのも、そもそもアメリカの大学の学位を持っていない(残念ながら日本の大学を卒業しただけでは高い評価はされないようです)、英語力のハンデ、就労ビザがとりにくいといった問題があるからです。ですが、もちろんアメリカで仕事を見つけたという人も沢山いるのでチャレンジしてみてもいいかもしれません。大学は求人情報を提供してくれたり、社会人の方を沢山紹介してくれたりと手厚いサポートをしてくれるのでぜひ相談してみると良いでしょう。

【現地高校生との交流】

米国の現地高校生に外国文化について知ってもらおうイベント”Travel the Globe”にスタッフとして参加しました。このイベントは、フィンドレー大学が、周辺に住む高校生を大学に招待し、異文化交流をするというものです。フィンドレー大学には、日本・韓国・中国・インド・サウジアラビア・スペイン・ドイツ...など様々な国からの留学生がいます。それらの留学生たちがアメリカの高校生と話し、互いの文化を理解するのが目的です。日本セッションでは、日本に関するクイズ・箸を使ったゲーム・折り紙を行いました。アメリカの高校生も楽しんでくれるような内容になったと思います。印象的だったのは箸を使える人が多かったことです。聞いてみると、よく日本食レ

ストランに食べにいき、そこで箸の使い方を学ぶのだそうです。その一方で、意外にもイチローはあまり知られていなかったことに驚きました。

【最後に】

だんだんとアメリカに慣れてきましたが、やはり言葉が不自由でもどかしい毎日です。11月は、実際にボストンにて就職面接を行うのでそれについてのレポートや、月末にあるサンクスギビングデー(感謝祭)についてお知らせしたいと思います。今月も長文を読んでいただきありがとうございました。福井も段々と寒くなっていると聞きましたので、皆様もお体ご自愛ください。



左図：箸を使ったゲームを楽しむアメリカの高校生

右図：キャンパスの木々の葉は既に散ってしまいました。

※本レポートに関しまして、内容に関しての要望や問い合わせ等があれば以下のメールアドレスにてご連絡下さい。

okada.fukui.findlay@gmail.com

【はじめに】

11 月になり、雪は珍しいものではなくなっていました。今月は、先月からお伝えしているボストンでの就職活動に加えて、授業内容等についてお伝えしたいと思います。

【ボストンにて】

11 月の月上旬に就職活動のためボストンに行っていたのですが、とてもきれいで、落ち着いた街だという印象を受けました。4 日間滞在したのですが、観光はほとんどできなかったのも、また必ず行きたいと思います。

私が参加したのはボストンキャリアフォーラムというもので、200 社近くの企業と 10000 人近くの学生が参加していました。「留学すると就職に不利」という方がいるかもしれませんが、全くそのような事はありません。私は無事内定をいただく事が出来ました。準備さえ怠らなければ、留学はいいアピールポイントとなります。それ以上に主体性を持って物事に取り組んだ経験が評価されるように感じたので、学生時代に自分のやりたい事を突き詰めるのが内定への近道なのではないかと思います。また、ボストンキャリアフォーラムは様々な企業を効率よく知ることができるので、民間企業への就職を考えている人にとっては価値のあるイベントだと思いました。

【勉強内容について】

こちらフィンドレー大学は、12 月 10 日をもって秋学期が終了します。期末試験が近くなって来た所で、今学期私がどんな勉強をしてきたのかについてお知らせしたいと思います。

Sports & Event Management

この授業では主にスポーツイベントをどのように企画・運営すべきかについて学んでいます。フィンドレー大学のスポーツディレクターである教授が授業を担当していますが、それに加えて毎週スポーツビジネスに関わる方々がゲストスピーカーとして講義をしてくれます。期末課題は、自分でイベントを企画して、その企画書を提出するというものでした。ちなみに、スポーツディレクターとは、大学の重要な資金源の 1 つであるスポーツビジネスの責任者です。日本では聞き慣れない職業ですが、アメリカでは各大学に 1 人はいるようです。

International Business

この授業は、グローバル化が進む昨今において、企業がどのように国際展開すべきかを考える授業です。教授はインド人で、学生も中国人、台湾人、メキシコ人、ロシア人がいるなど多様なバックグラウンドを持つ学生が受講しています。毎回、各国の思い込みと現実のギャップに驚かされます。日本人は私だけなのですが、他国の学生の日本に対する思い込みにも驚いています。最終課題は自分が知らない国を 5 つ調べるというレポートで、主にアフリカ諸国の経済状況とビジネスチャンスについてリサーチしました。

Principle of Speech

スピーチの種類・手法を学ぶ授業です。授業ではプレゼンテーションを計 3 回行います。すべての学生がとらなければならない科目なのですが、「アメリカ人はプレゼンテーションが上手」と言われる所以を知ることが出来たように思います。日本人との大きな違いは、アメリカ人学生の方がプレゼンテーションの経験が多い事と、スピーチに関する知識が多い事です。演説のノウハウは古代ギリシャより積み上げられています。それら学問的な知識についてももしっかり学べる授業となっていました。

Writing Review for Non-Native Speakers

論文やレポートをどのように書くのかという授業です。論文の構成はもちろん、参考文献をどのように探し出し、どういった形で論文に引用するかなどについて学びます。アメリカは他の論文をコピーする「剽窃」についてとても厳しい国なので、論文を書くにも厳格さが必要とされます。クラスメートは皆留学生で、その多様性も非常に面白いです。大学には書いた論文をチェックしてくれるサービスがあり、毎回課題を提出する前にそこでチェックしてもらっています。

Intro to Photography

フィルム写真について学ぶクラスです。大学が必要なものを全て用意してくれるので、全く知識がなくても大丈夫です。カメラの使い方、フィルムの現像、プリントまですべて教えてくれます。プリントするまで時間がかかりますが、自分で手を加えることができ面白いです。白黒ですが、とても味がある写真が出来上がります。最終課題はオハイオ州内のリヤマという町で行われる芸術祭に出品するというものです。その芸術祭では、作品が入賞したり買われたりする事があるそうなのでとても楽しみです。

Experience in Japanese

アメリカ人と日本人が半々の授業で、お互いの文化について理解しあう事が目的の授業です。アメリカの文化に驚く事もしばしばですが、日本の文化を見つめ直す機会でもあります。例えば、「遠慮」をクラスで紹介することがあったのですが、アメリカ人にとっては特異な概念だったようで、なかなか伝わりませんでした。その他、「義理」「本音」「建前」なども紹介しました。特に印象的なのは、現地の学生とスイカ割りをしたことです。

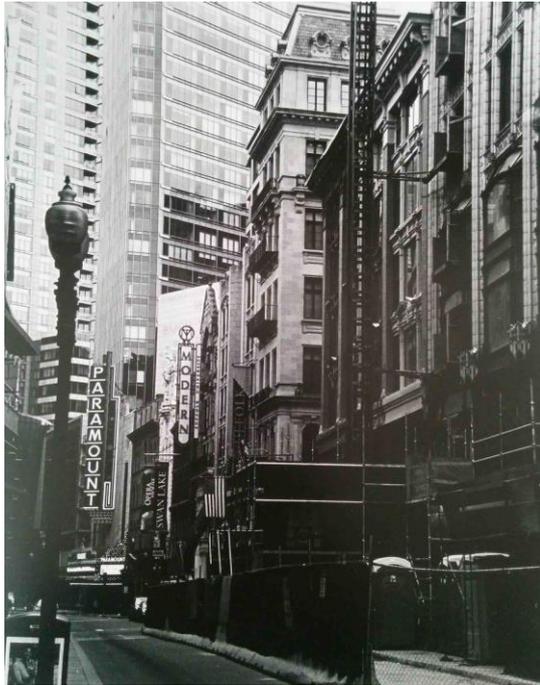
以上が今学期の授業です。12 月上旬がテストなので、どの授業もテストの準備で忙しいです。来学期は 1 月 4 日よりスタートし、Seminar of Entrepreneurship (起業家精神)、Business and Society (ビジネスと社会)、Personal Finance (個人投資)、Writing Review (ライティング) の 4 科目を受講する予定です。

【終わりに】

アメリカでは 11 月末にサンクスギビング (感謝祭) の休日がありました。この休日は昔、イギリスからアメリカに移住した人々が厳しい冬をネイティブアメリカンの助けを得て生き延びる事ができ、それを先住民とともに神に感謝したことに由来しているそうです。今では家族と過ごす重要な休日の 1 つとして認識されているようです。

この休日を利用して、クリーブランドでプロバスケットボールを観戦して来ました。世界一のバスケットボールリーグが誇るエンターテインメントに終始圧倒されっぱなしでした。試合はクリーブランド・キャバリアーズがワシントン・ウィザーズを 113-87 で下しました。キャバリアーズはレブロン・ジェームズという選手が有名ですが、ルームメイトはバレジャオというブラジル人選手が一番とって譲りませんでした。ぜひまた行きたいと思います。

今月はここで失礼します。お付き合いいただきありがとうございました。



左図：ボストンの街並みをフィルムカメラで撮って、授業で現像した写真です。

右図：クリーブランド・キャバリアーズの試合の写真です。

※本レポートに関しまして、内容に関する要望や問い合わせ等があれば以下のメールアドレスにてご連絡下さい。

okada.fukui.findlay@gmail.com

【はじめに】

皆様、あけましておめでとうございます。アメリカは日本のように年末年始の休みがないので、本当に年が明けたのかと不思議な感じです。同じ大学の友人にお雑煮を作ってもらったのですが、澄まし汁仕立てで、こちら私にとっては何とも不思議な感じでしたが、だんだんと年明けの実感がわいて来たように思います。

12 月は上旬に期末テストがあり、その後 3 週間ほどの冬休みがありました。期末テストの準備はかなり大変でしたが、苦勞の甲斐もあり全ての科目で最高評価である A をいただく事が出来ました。このような良い成績を得る事が出来たのは、不慣れな環境の中いつも支えてくれた友人・知人や家族、教授のおかげだと思っております。また、常に福井県の代表として恥ずかしくないようにと心がけて来たという点で、私にチャンスくれた福井県の皆様のおかげだとも感じています。この場を借りてお礼をさせていただきたいと思います。来学期は 1 月 5 日にスタートしますが、歩みを止める事なく最後まで突き進んでいきたいと思っています。

今回のレポートでは、休暇中に何度か遠出した中で、印象に残った 2 つの博物館についてお知らせしたいと思います。1 つは、シンシナティの National Underground Railway Freedom Center、もう 1 つは、ロサンゼルス of Japanese American National Museum です。いずれもアメリカ合衆国の新しい側面を見る事が出来たという点で印象的でした。

National Underground Railway Freedom Center (シンシナティ)

この博物館は、17 世紀から 19 世紀まで続いた奴隷制をテーマにしています。フィンドレー大学の川村宏明教授の発案で日本人学生数人とともにこの博物館を訪れました。川村教授は私のアカデミック・アドバイザーで、いつも学生の生活を気遣ってくれるだけでなく、勉強面の助言もしてくれます。フィンドレー大学ではどんな授業をとるかをアドバイザーと一緒に話し合っているのですが、いつも親身話を聞いてくれる先生には本当にお世話になっています。その川村先生の運転でシンシナティの同博物館まで連れて行っていただきました。

シンシナティはオハイオ州の最も大きな都市の 1 つで、南部で接するケンタッキー州との州境にあります。アメリカの奴隷制は、南北戦争(1861-65 年)で奴隷制に反対していた北部が勝利したことによって終わりましたが、そのときに北軍と南軍を分けたのが、オハイオ州とケンタッキー州の境界を流れるオハイオ川でした。南部の奴隷達は、自由を求めてこのオハイオ川をわたってオハイオ州をはじめとする北部に向かったと言います。シンシナティにも多くの自由を求める奴隷達が立ち寄ったと言われていました。博物館では、奴隷達がどのようにして自由を勝ち取ったのか、その道筋や心情が仔細に綴られていました。南北戦争が終了するまで、奴隷達が自由を獲得するためには、北部の自由州に逃亡するだけでは不十分で、カナダやメキシコといったすでに奴隷解放令が公布された欧州諸国が統治する土地に入らなければなりません。というのも、自由州の全ての住民が奴隷制に反対していたわけではなく、北部州の住民でも、逃亡奴隷を見つけたらそれを南部奴隷州に送る権

利がありました。そして、このように途中で見つかって南部に送り返される奴隷達は、脱出がほぼ絶望的な南部の土地に送られたといえます。

オハイオ州に入った奴隷達は、その後カナダへの脱出を試みますが、途中で奴隷狩りにあつたり、様々な理由で死に至つたり、家族と離ればなれになつたりと、悲しい運命に翻弄されました。しかし、それにも負けずに困難に立ち向かった人々に敬意を払わずにはられませんでした。

Japanese American National Museum (ロサンゼルス)

ロサンゼルスにはアメリカ最大の日系人コミュニティがあり、日系人が多く住む地域はリトルトーキョーとよばれ、多くの観光客を集めています。年末年始にロサンゼルスを訪れたのですが、観光客でどのお店も一杯でした。特にラーメン屋は1時間待ちの所もあり、日本食ブームに驚きました。そのリトルトーキョーの一角にあるのが、全米日系人博物館です。この博物館は戦前戦後に活躍した日系アメリカ人をテーマにしており、日本にはなかなか見られない展示が多く、印象的でした。特に心を強く打ったのは、第二次大戦時の日系二世の苦悩です。日米どちらの国にも愛着を持つ中で、難しい選択を迫られる彼ら彼女らの思いに胸が張り裂ける思いでした。深く興味を持ったので、フィンドレーに戻ったあとに山崎豊子の『二つの祖国』を読みました。これは、様々な状況下に置かれた日系二世たちについての物語で、1984年の大河ドラマ『山河燃ゆ』の原作になったものです。日系二世のそれぞれの苦悩に加えて、著者の深いリサーチに基づく歴史的事実にも多く触れる事が出来る本なので、深く感動するとともに良い勉強になりました。

戦争が始まるとともに強制収容されたり、差別と戦うために戦地に赴いたり、身寄りが無いにも関わらず帰国を余儀なくされたりといった困難に立ち向かった人々がいたことを心に刻みたいと思います。

【おわりに】

今月のレポートは話が重くなり、かつフィンドレー大学の話がほとんど書けませんでした。来月のレポートはまたキャンパスからいろいろな話をお届けできるかと思います。今月もお付き合いいただきありがとうございました。今年もどうぞよろしくお願い致します。

※本レポートに関しまして、内容に関しての要望や問い合わせ等があれば以下のメールアドレスにてご連絡下さい。

okada.fukui.findlay@gmail.com

【2015 SPRING SCHEDULE】

	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY
10:00-10:50					
11:00-11:50		Business and Society (-12:15)		Business and Society (-12:15)	
12:00-12:50					
13:00-13:50	Personal Finance	Writing (-14:15)	Personal Finance	Writing (-14:15)	Personal Finance
14:00-14:50					
15:00-15:50					
18:30-21:15			Seminar in Entrepreneurship		

【はじめに】

フィンドレー大学の春学期は 1 月 5 日よりスタートしました。既に留学期間の半分が過ぎてしまいましたが、焦ることなく将来の糧になる経験を 1 つずつ積み重ねていきたいと思えます。

学期が始まったばかりですが、1 つ嬉しい事がありました。というのは、前学期受講していた写真の授業の作品が写真展の選考を通過したことです。以前お伝えした通り、写真の授業の最終課題はオハイオ州内の写真展に作品を出品するというもので、私の写真は 2 月末までギャラリーに展示されることになりました。授賞式にまで招待していただき、芸術家気分を味わってきました。受賞は出来ませんでしたが高貴な経験になりました。どの作品も強いメッセージを持っているものばかりで、写真の奥深さを感じました。

今回のレポートでは、今学期の授業の様子と、先日訪れたデトロイトモーターショーについてお伝えしたいと思います。

【今学期の授業について】

まず、今学期の授業について紹介します。受講しているのは 4 科目で、おもしろい授業ばかりです。

Business and Society

これはビジネスと社会の関係について考える授業です。企業や組織の利害関係者のことをステークホルダーと呼ぶのですが、その範囲は、従業員・株主・関係会社・国・所属するコミュニティなど多岐にわたります。それらのステークホルダーに対して企業は責任があるという考え方が CSR(Corporate Social Responsibility/企業の社会的責任)です。この授業では、企業とステークホルダーの関係を読み解き、どのように付き合っていくべきかを考えていきます。アメリカには CSR に関心が高い企業が多いので、興味深い事例を沢山知ることができます。その反面、ステークホルダーの中でも株主の声が大きいという日本との大きな違いがあるので、そこを深く掘り下げて学んでいきたいと思えます。

Seminar in Entrepreneurship

Entrepreneurship の和訳は「企業家精神」です。この授業ではビジネスプランの作成や、起業をする際に必要なプロセスや知識を学びます。教授自身が起業していて、かつオハイオ州内の起業家たちにアドバイスをしている方なので毎回とても勉強になっています。ビジネスプランを作ることから始め、会社形態、税制、ファイナンス、経営についてディスカッションをして

いきます。ゲストスピーカーが来ることも多く、話を聞いたりネットワーキングをしたりしています。これまでで一番印象的だったのは、「国家の経済成長を維持するためには起業家が必要だ」という先生の言葉です。アメリカの経済が世界のトップを維持している背景には企業家精神があるのではないかと思いました。

Personal Finance

これは個人がどのようにお金を運用していくべきかを考える授業です。卒業後のキャリアについて考えたり、確定申告のやり方を学ぶ所から、株式や債券への投資のノウハウまで学んでいきます。学問というよりはより実務を学ぶことに焦点が当てられています。これを機に株式投資のゲームを始めたのですが、なかなか利益を出すことができません。投資家への道のりはまだまだ長そうです。

Writing Review for International Students

留学生用のライティングの授業で、内容は前学期履修したライティングの授業とほとんど変わらないのですが、書く量が少し増えました。ライティングはたくさん書かないと伸びないと教授から言われたので、引き続き履修しています。

【デトロイトモーターショー】

先日友人と共に、全米最大の新車発表会といわれるデトロイトモーターショーに行ってきました。モーターショーとは、トヨタやフォード、VWといった各自動車会社が新商品を発表するイベントで、平日にも関わらず大盛況でした。特に目を引かれたのはスポーツカーやエコカーでした。特に燃料電池を搭載したトヨタのMIRAIは、排出するのは水のみという究極のエコカーで、かなりの注目を浴びていました。私が特に欲しかったのは、テスラというシリコンバレー発のベンチャー企業が発表していた電気自動車です。巨額の資本が必要といわれる自動車産業に新たに参入したテスラですが、ユニークな経営によってアメリカ西海岸を中心に販売台数を伸ばしています。日本ではまだそれほど有名ではないようですが、間違いなく今後の自動車産業のイノベーションを牽引する企業の1つになると思われます。そのほかにも、米軍のブースにて初めて見る戦車の迫りに圧倒されたり、3Dプリンターによる自動車生産の現場を見ることができたりと、非常に勉強になる一日となりました。

【おわりに】

先日生まれて初めてミュージカルを観ました。ニューヨークのブロードウェイで活躍する劇団が運良く近くに来たので、友人に連れて行ってもらいました。観たのは「美女と野獣」で、歌、芝居、見せ方すべてに圧倒されました。今月は他にも写真、自動車と「本物の技術」に出会う機会が多く、とても充実した1ヶ月になりました。



左:写真展にて。
右:デトロイトモーターショーにて。いつか欲しいです。



今月もお付き合いありがとうございました。

※本レポートに関しまして、内容に関しての要望や問い合わせ等があれば以下のメールアドレスにてご連絡下さい。

okada.fukui.findlay@gmail.com

岡田朋大

【はじめに】

1日だけ雪のためクラスが休講になりましたが、フィンドレーは例年より落ち着いた天気が続いているそうです。夜は-20℃とかなり冷え込む事もありますが、すでに慣れてきました。2月はプロのアメリカンフットボールの全米一を決めるスーパーボウルで幕を開けました。中旬には福井・フィンドレー奨学金を創設されたフリード前学長を訪問し、様々なお話をさせていただきました。また、月末にはフィンドレー市の経済開発局の方々に福井県についてプレゼンテーションをする機会を頂きました。今月のレポートは、スーパーボウル、フリード前学長訪問、福井プレゼンの3本立てでお送りします。

【Super Bowl XLIX (スーパーボウル 49)】

今年で49回を迎えるスーパーボウルは、ニューイングランド・ペイトリオッツと、シアトル・シーホークスが顔を合わせました。ペイトリオッツが最終クォーターで逆転し、28---24で優勝しました。シーホークスが勝ってもおかしくない試合でしたが、残り1分、1ヤードというところで優勝を逃してしまいました。一進一退の攻防が続く手に汗握る試合で、アメリカ人がこのスポーツの虜になる理由がわかったような気がします。

スーパーボウルは、スポーツビジネスが盛んなアメリカでも群を抜いて大きな大会です。1日しかない大会ですが、開催地であるアリゾナ州フェニックスへの経済効果は5億ドル(約600億円)、全米への経済効果は140億ドル(約17兆円)とされています。今年の平均チケット価格は7,500ドル(90万円)、観客数7万人、視聴率は49.7%、放映権料は40億ドル(4800億円)だったそうです。1週間前からあらゆるメディアがスーパーボウルの特集を始める、まさに国民的イベントでした。

イベントの規模の他に、日本の常識では考えられないような事がいくつもありました。1つはハーフタイムの広告料です。試合の途中にある中休みをハーフタイムというのですが、そこで30秒のCMを流そうとすると450万ドル(5.4億円)かかるそうです。これはアメリカで一番高いCM枠と言われていて、毎年上昇しています。1秒あたり1800万円を使っているという計算になりますが、それでもまだ割安だそうです。スーパーボウル期間中、トヨタが7800万ドル(94億円)、日産が7680万ドル(92億円)を広告費として使ったようです。

もう1つ驚いたのは、フェニックス大学のスタジアムを会場として使っていたことです。プロが大学の施設を使っているという点、大学が7万人を収容できるスタジアムを持っている点など、日本と違いすぎてよくわからなくなってきました。

【フリード前学長を訪問】

福井・フィンドレー奨学生制度は2005年に創設されたのですが、その当時フィンドレー大学の学長をされていたのがフリード氏です。もともとウエストポイントという陸軍士官学校を卒業したエリート軍人だったのですが、退役後教育の道を歩まれたとのこと。第二次世界大戦後の日本に派遣され、主に福井と大津に滞在していたそうです。福井・フィンドレー奨学生制度は、フリード氏がかつて福井に滞在していたという縁から創設されました。

教育から、経済、国際政治まで多様な話が飛び出しましたが、フリード氏は一貫して利他の心の重要性を強調していました。私がビジネスを専攻していると伝えると、「世界を良くするためのビジネスをきなさい」とおっしゃったのが印象的でした。心の底からの教育者なのだと思います。年齢は90歳近くですが、20代の私も負けていられないと刺激を受けるほど精力的に活動されており、尊敬の念を禁じ得ませんでした。1つでも多くの事を学び、日本に持ち帰る事が、今できるフリード氏への最大の恩返しなのだと思います。

【福井県についてのプレゼンテーション】

福井県とフィンドレーの間には、福井・フィンドレー奨学生制度と、福井大学とフィンドレー大学間の交換留学制度という2つの教育的なつながりがあります。今回のプレゼンテーションは、福井とフィンドレーのつながりを教育以外の面にも広げたいという思いから行われました。フィンドレー市の経済開発局の方々に集ってもらい、福井県の概要、特に経済面に焦点を当ててお話しさせていただきました。拙い英語でしたが、経済開発局の方々は熱心に聞いてくださり、質疑応答も盛り上がりました。アメリカ人にとっては、毎年春に敦賀の金崎宮で行われる「花換え祭り」や、おいしい水と米からできる日本酒が興味深いということでした。

プレゼンテーションの中で特に強調したのは、ものづくりに適した県民性です。昨年、福井県が日本で一番幸せであるという調査結果が出ましたが、その理由として、教育水準が高い点、失業率が低い点、女性の社会進出が進んでいる点、生活の質が高い点が挙げられます。それに加えて、福井県民には仕事をすぐ投げ出さない忍耐力があります。これらの特性はものづくりをするにあたって非常に大きな強みになります。ものづくりには技術の蓄積がものを言うので、腰を据えてじっくり物事に取り組むことができる福井は製造業に適した土地であると申し上げました。

その反面、福井は日本で最多数の原子力発電所を抱えており、その先行きは不透明です。原子力発電所があることによるメリットは数多くありますが、デメリットもまた多いです。原発の今後の方針がはっきりしないため、プレゼン中は説明に困る点が多くありました。投資家にとっては、原発の今後が明確にならない限り、投資するかどうかの判断はしかねるというのが正直なところだと思います。

今回のプレゼンテーションは福井県を見つめ直す良い機会になりました。北陸新幹線の開通が新たなビジネスチャンスを生み出すと予想されますが、それ以前に、福井県の今あるものをうまくアピールする事も大事だと感じます。私の話がどれだけ相手の心に響いたのか、今後どのような進展があるのかはわかりません。ですが、終わってみて達成感と満足感があり、勇気を出してやってみて良かったと思います。

【おわりに】

アメリカでしかできない体験をしようということで、ビールづくりに挑戦してみました。日本だと個人がアルコールを醸造することは禁止されているのですが、アメリカだと量に制限がありますが可能です。アメリカにはビールづくりを趣味としている人も多くいるそうです。必要な機材や材料はすべて通販で手に入ります。すべての材料を混ぜ合わせ、2週間の発酵期間を経るだけという非常に簡単なプロセスでした。出来上がったのはアメリカンラガーという種類のビールで、自分で作ったこともあり格別なおいしさでした。

福井県は麦の生産量が日本一で、おいしい水も豊富なので、ビールがたくさん作れるのではないかと思います。また、日本酒の酵母を使ってビールを作るとまた違った味わいになるという事なので、日本に帰る前にもう一度挑戦してみたいです。

福井は春一番が吹いたと聞きました。来月はフィンドレーもあたたかくなるのでしょうか。今月もお付き合いいただきありがとうございました。



左:福井県プレゼンテーションの様子
右:フリード前学長を訪問

※ 本レポートに関しまして、内容に関しての要望や問い合わせ等があれば以下のメールアドレスにてご連絡下さい。 okada.fukui.findlay@gmail.com

【はじめに】

3月のフィンドレーは非常に暖かくなっています（とは言え10℃にはなかなか届きませんが…）。歩道をふさいでいた雪も解けて無くなり、晴天が続いていて、とても気持ちが良いです。今月も様々な事がありました。本レポートでは、フィンドレー市長との対談、ニューヨーク旅行、『日本一短い手紙』の寄贈の3つをお送りしたいと思います。

【フィンドレー市長との対談】

フィンドレー大学の川村先生のはからいで、埼玉県奨学生とともにフィンドレー市長であるリディア・ミハーリック氏にお会いする機会を頂きました。ミハーリック市長はフィンドレー大学の卒業生で、女子バスケットボールの選手だったそうです。「市長」というものにやや堅苦しいイメージがありましたが、ミハーリックさんはアスリートらしく、とても気さくで明るい方でした。およそ30 分の対談でしたが、福井県の観光パンフレットと、先月経済開発局の方々に向けて行ったプレゼンテーションの資料を渡し、福井県をアピールして参りました。日本を訪問するときは、ぜひ福井にも立ち寄りたいて言っていたいただき、感激しました。また、市庁舎の内部を案内していただきました。市議会は市民であれば誰でも傍聴可能だそうで、とてもオープンなアメリカの政治を垣間見ることができました。

【ニューヨーク旅行】

3 月の上旬に1 週間の春休みがあったので、かねてから行きたいと思っていたニューヨークを訪れました。「世界の首都」と呼ばれる都市だけに、見所が尽きる事はありませんでした。マンハッタンに点在する様々な美術館や博物館では世界各国から集められた展示品を見ることができましたし、街のあちこちのレストランでは世界各国の料理を楽しむことができました。中でも、9.11 メモリアルミュージアムと国際連合に行く事ができたのでとても満足しています。雪のため自由の女神を見に行く事はできなかったのが残念でしたが、とても良い旅になりました。

【『日本一短い手紙』】

丸岡文化財団の岡崎義和様と福井県国際交流協会の高嶋起代子様、その他多くの方のご協力のもと、一筆啓上賞作品集『日本一短い手紙』をフィンドレー大学とトレド日本人補習校の方に寄贈させていただきました。一筆啓上賞とは、毎年丸岡文化財団が主催している手紙文のコンクールで、40 文字以内の文字制限がある事から「日本一短い手紙」として知られています。昨

年は世界各国から3万を超える応募が集まりました。作品は最大で40文字と短いため、6歳から92歳と、入賞者の年齢が幅広いのが特徴です。

入賞者の作品は心を奪われるものばかりでした。早く来年にも、トレド日本人補習校の生徒や、フィンドレー大学の日本語学科の学生が入賞するのではないかと期待しています。

【最後に】

遠くアメリカから応援していた敦賀気比高校が、選抜甲子園大会で優勝したと知りました。北陸勢が優勝するのは初めてということで、県民としても嬉しく、同時に誇らしく思います。

日々の並々ならぬ努力、部員や関係者の協力と信頼関係、ここ一番での勝負強さ、積み上げて来た実績と自信など、様々な要素が輝かしい結果をもたらしたのだと思います。留學生活も残すところあと少しとなりましたが、努力は裏切らないことと、感謝の気持ちを胸に、初心を忘れず走りきりたいと思います。



左: ミハーリック市長訪問の様子。

右: 9.11 メモリアルミュージアムにて。「愛した人との記憶が消えることはない」と記されています。

※ 本レポートに関しまして、内容に関しての要望や問い合わせ等があれば以下のメールアドレスにてご連絡下さい。

okada.fukui.findlay@gmail.com_

岡田朋大

【はじめに】

フィンドレーは初夏を迎え、すっかり暖かくなりました。湿気も少なく、晴れると真っ青な空が広がります。聞くところによると、こちらの夏は暑すぎずとても過ごしやすいそうです。

今回のレポートは、国立アメリカ空軍博物館、シンポジウムでの研究発表、表彰式、期末試験についてお送りします。今回は最後のレポートです。ぜひ最後までお付き合い下さい。

【国立アメリカ空軍博物館】

フィンドレーから車で1時間ほど行ったところにデイトンという街があります。今月上旬に、この地にある国立アメリカ空軍博物館を見学して来ました。デイトンは、初の有人飛行に成功したライト兄弟を輩出したことで知られています。現在は、ライト兄弟の名前を冠したライト・パターソンという空軍基地が置かれており、博物館はこの基地に併設されていました。

博物館の入場料は無料ですが、ライト兄弟の時代から現在の戦闘機に至るまで400以上の航空機やミサイルが展示されており、スケールの大きい博物館です。大統領専用機や、イラク戦争で使われた戦闘機など見所がたくさんありました。日本の零戦も展示してあり、“Zero”という名前で紹介されていました。中でも一番大きな人だかりができていたのが、“B-29”ボックスカー”です。B-29は日本を空爆したことで知られていますが、このボックスカーは長崎に原子力爆弾を落とした実機です。ここでの展示で感じたのは、アメリカと日本の原爆についての歴史認識の相違です。アメリカの主張は、戦争を早期終結させた原爆の使用を正当化していましたが、何度聞いてもそれは私にとって腑に落ちるものではありませんでした。

しかしそれ以外は、終始純粋に楽しむことができました。特にアポロ15号の展示が印象的でした。宇宙に実際に行ったものを間近で見るのは初めてで、しばらく興奮が収まりませんでした。

【シンポジウムでの研究発表】

4月17日に、学内で“Symposium for Scholarship and Creativity”というシンポジウムがありました。このイベントはフィンドレー大学が主催していて、今年で9回目を迎えます。今年も例年通り学生が研究成果を発表したり、卒業生を招いて講演会を行ったりしました。私は日本で行っていたスポーツビジネスの研究について発表しました。「メジャーリーグと日本プロ野球の収益構造の違い」をテーマに、主にテレビ放映権にしばって発表しました。テーマが野球だったため、思ったより人数が集まり緊張しましたが、なんとかやり切ることができました。こちらに来てからプレゼンは何度もやってきましたが、今回は一番緊張しまし

た。発表後、何人もの教授や学生に声をかけていただき、とてもうれしく、自信になりました。

私の発表内容を簡単に言えば、「なぜメジャーリーグは儲かって、プロ野球は儲からないのか？」ということになります。プロ野球の人气が低迷し始めてから長く経ちますが、その理由や対策を明確に言い当てている書籍や論文には未だ出会っていません。そこで自分で分析しようと思い、今回発表に至りました。細かい説明は省きますが、これまで日本のプロ野球の常識とされてきた主張は実は信憑性に欠けるのではないかという結論が得られました。常識に反する事実が見つかったという点で価値のある研究になったのではないかと思います。

【表彰式にて】

同じくシンポジウムで、学部ごとの表彰式が行われました。わたしはビジネス学部の表彰式に出席し、最優秀留学生賞を頂きました。この賞をもらえるのは1人だけで、多くの留学生の中で受賞できたことに誇らしさを感じています。成績が良かった事に加え、フィンドレー市の経済開発局へのプレゼンテーションが評価されたようです。様々なチャンスを下さった川村先生を始めとするフィンドレーの方々への感謝の気持ちで一杯です。これで胸を張って福井に帰れると思います、とてもほっとした気持ちになりました。

【期末試験】

今学期は4科目を受講しましたが、期末試験はやはり難しかったです。試験の構成はテストが1つ、レポートが1つ、プレゼンテーションが2つでした。ですが、それぞれいい成績を取ることができ、成長を感じることができました。特にプレゼンテーションは今年何度も経験してきたので、自信を持ってできました。また、ライティングもかなり進歩したと思います。アメリカに来る前、英語のスピーキングとライティングが苦手だったのですが、大分克服できたように思います。

【おわりに】

今回がとうとう最後のレポートとなってしまいました。フィンドレーでの初日が昨日のように思い出され、まさに「光陰矢の如し」を実感しています。幸運な事に、この留学では出会いに恵まれ、友人や教授陣を始めさまざまな人にお世話になりました。テストも終わり、残すところは帰国のみとなりましたが、フィンドレーを離れるのは本当に寂しく感じます。

フィンドレーでできた友人や思い出は何にも代え難い財産です。留学のチャンスを下さった福井県国際交流協会、様々なことにチャレンジさせて下さったフィンドレー大学の皆様、毎日新しい学びと笑顔をくれた友人達、そして遠くからいつも支えてくれた家族に感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。



上: ライト兄弟が作成した飛行機の模型



下左: 表彰式の様子。教授と。

下右: ルームメイトとの最後の写真



2014-2015 フィンドレー大学・福井県奨学生 修了報告書

岡田朋大

昨年の8月、トレド空港からフィンドレーへ向かう車の中で「空が広いな」と思いました。そして同時にふるさとの福井を思い出しました。福井と比べると、ビルが林立する東京の空は狭いです。進学のために上京して以来、空の狭さこそが豊かさだと錯覚していましたが、空が広いということの素晴らしさ、ありがたみを再確認しました。また、オハイオの人たちは空の広さに負けないほどおおらか優しく、外国人の私を何度も助けてくれました。本当に感謝の気持ちで一杯です。

「鶏口牛後」という言葉があります。留学を終えた今の自分の気持ちを表すのはこの言葉です。「鶏口となるとも牛後となるなかれ」、つまり大きな組織に従って使われるだけ(牛後=牛の尻)よりも、小さな組織でリーダーとなる(鶏口=鶏の口)方が価値があるということわざです。フィンドレー大学は小さな大学です。小さな大学であるからこそ、市長や学長との対談、経済開発局へのプレゼン、写真展への出品、シンポジウムでの発表、トレド日本人補習校での経験といったたくさんのチャンスを得ることができました。優秀留学生として表彰されたのは、主体性を持って過ごした日々が自分を成長させてくれたからです。「鶏口」となるチャンスを下さった川村先生をはじめとするフィンドレー大学関係者に大変感謝しています。

また、アメリカ人の独立精神からも多くの事を学びました。「人からどう思われるか」よりも「自分が何をやりたいか」を重視する友人たちに、牛後に甘んじるという考えはありません。日本人は「寄らば大樹の陰」となりがちですが、自分自身で道を切り開いていくという本当の「自由」をアメリカで学んだように思います。

福井県奨学生として過ごした10ヶ月でしたが、あっという間に過ぎ去ってしまいました。それと同時に、とても密度の濃い、かけがえのない時間となりました。アメリカで得たことを日本に持ち帰ることも奨学生の義務ですので、環境が変わっても走り続けたいと思います。

最後になりますが、奨学生として選出していただき、留学というチャンスを下さった福井県国際交流協会に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。